

普及項目	養殖・流通
漁業種類等	養殖
対象魚類	マガキ
対象海域	八代海

平成 30 年度マガキ天然採苗・養殖技術開発試験指導

県南広域本部水産課・吉川 真季

【背景・目的】

八代海では、アサリ資源の減少、ノリ養殖の不振、漁船漁業における水揚量の減少等により漁業者の経営は厳しい状況にある。このような中、新たな収入源としてマガキの養殖が開始されているが、養殖に使用する種苗は県外産に頼っている。種苗調達コストの軽減や安定的な種苗確保には地元産種苗の採苗技術開発が必要と考えられるため、鏡町漁協及び同マガキ生産部会（以下、漁協等）が試験とデータ収集を適正に行えるようにすることを目的とした。

【普及の内容・特徴】

(1) マガキ天然採苗技術開発試験：漁協等は、採苗のための基質の種類や設置場所の違いにより採苗する稚貝の量や質に差が生じるかを試験した。今回試験で用いた基質は、現在の養殖で使用されているホタテカルチ以外にクペル及び OK プレーートのシングルシート種苗を作出する基質 3 種を用いた。平成 30 年 6 月 5 日及び 20 日に鏡町地先 4 カ所（鏡港、大鞆港、抑制棚、イダ）にこれらを垂下、8 月 20 日に予備試験として大鞆港の種苗を採苗、平成 30 年 11 月 5 日に全試験カ所で採苗し試験を終了した。

(2) 養殖技術開発試験：漁協等は 8 月及び 11 月に得られた種苗を、鏡港、抑制棚及びイダの 3 カ所でバスケット及びあんどんかごによる養殖試験を行った。12 月～2 月に月 1 回のサンプリングを行い、殻高、殻長、殻幅、重量の計測を行った。

水産課は、採苗器質の設置場所に係る助言、採取種苗の計測のほか、養殖技術開発試験の現地指導、マガキの成長調査を行った。

【成果・活用】

(1) マガキ天然採苗技術開発試験

どの基質にも多寡はあれども種苗の付着がみられた。採苗個数は鏡港、大鞆港が多く、各地先間で大きな成長の差はみられなかったことから、採苗の場所は鏡港と大鞆港が良好と思われた（図 1）。

(2) 養殖技術開発試験

各地点間の成長の傾向としては、抑制棚及びイダで堅調な成長がみられた（図 2）。また、8 月に採苗した種苗は抑制棚において、8 月から 2 月までに殻高約 15mm から 43mm まで成長した（図 3）。採苗時期と養殖場所を工夫することで、採苗した翌年の 3 月末までに殻長 50mm サイズ程度まで成長させることが出来ると期待される。

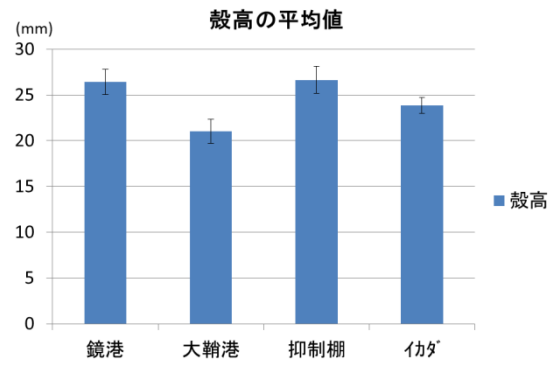
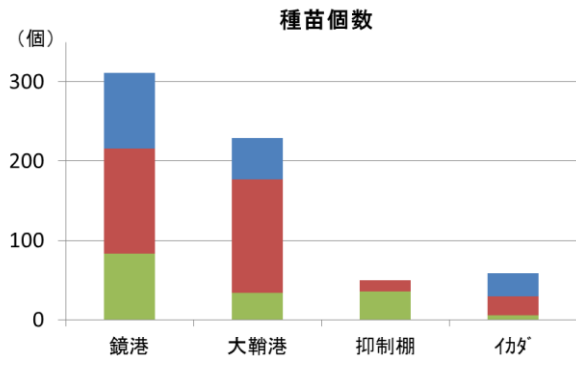


図1 11月採苗種苗の各地先における採苗個数及び平均殻高

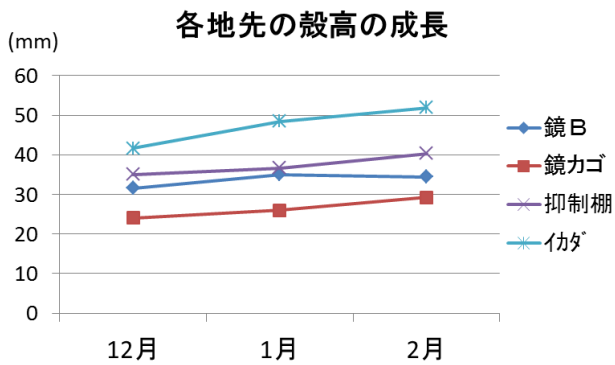


図2 11月採苗種苗による養殖試験結果及び2月サンプリング時写真 (ｲﾀﾞ)

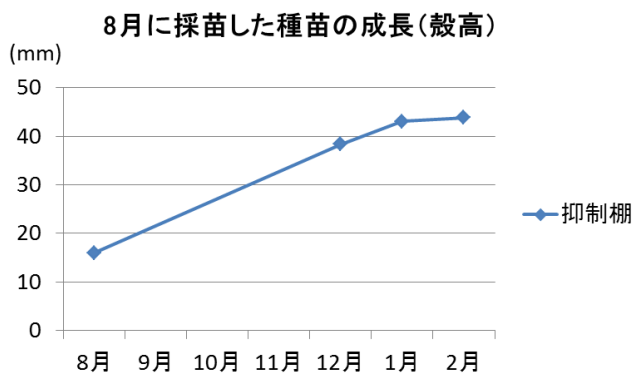


図3 8月採苗種苗による養殖試験結果及び同種苗2月サンプリング時写真